

自走用 NA-SU1・NA-SU2W

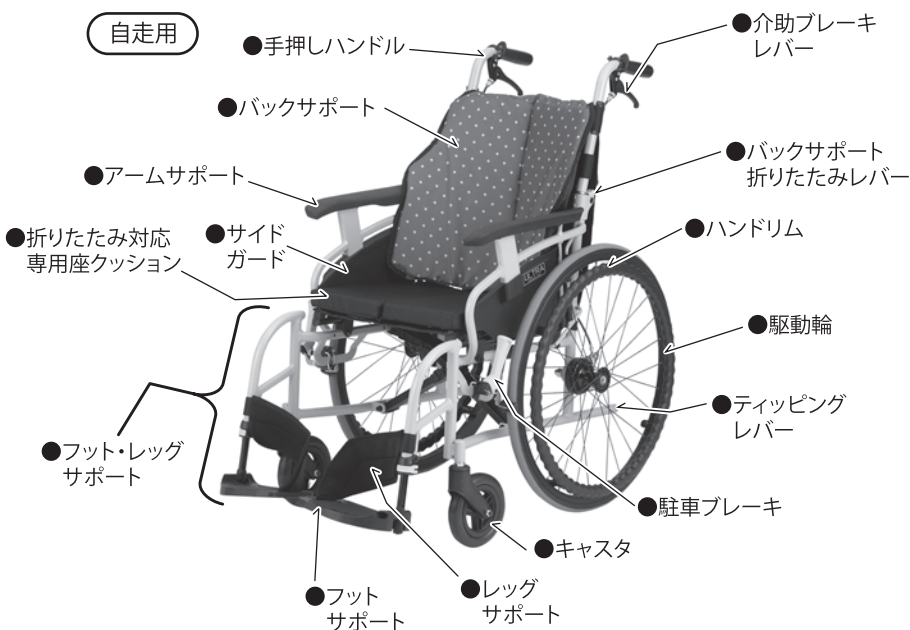
介助用 NAH-SU1・NAH-SU2W

取扱説明書

この度は、製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
製品を安全、快適にご使用いただくための大切な内容が記載されております。
ご使用前に必ずお読みください。
なお、保証書も掲載致しておりますので、大切に保管してください。

目次はP26に掲載しております

各部の名称



仕様・サイズ

機種名	全長 cm	全高 cm	全幅 cm	シート幅 cm	シート奥行 cm	前座高 cm	後座高 cm	アームサポート高 cm	キヤスタ インチ	駆動輪(主輪) インチ	重量 kg (専用座クッション含まず※)	耐荷重(積載物を含む) kg
NA-SU1 シート幅40cm	101 (100)	92 (66)	55 (30)	40	38	42	38.5	24.5	6	22 (25-501)	13.1	100
NA-SU1 シート幅43cm	101 (100)	92 (66)	58 (30)	43	38	42	38.5	24.5	6	22 (25-501)	13.1	100
NAH-SU1 シート幅40cm	101 (91)	92 (66)	49.5 (26)	40	38	42	38.5	24.5	6	14	11.9	100
NAH-SU1 シート幅43cm	101 (91)	92 (66)	52.5 (26)	43	38	42	38.5	24.5	6	14	11.9	100
NA-SU2W シート幅40cm	100 (99)	92 (66)	55 (30)	40	38	42	38.5	24.5 ~30.5	6	22 (25-501)	14.3	100
NA-SU2W シート幅43cm	100 (99)	92 (66)	58 (30)	43	38	42	38.5	24.5 ~30.5	6	22 (25-501)	14.3	100
NAH-SU2W シート幅40cm	100 (90)	92 (66)	49.5 (26)	40	38	42	38.5	24.5 ~30.5	6	14	13.1	100
NAH-SU2W シート幅43cm	100 (90)	92 (66)	52.5 (26)	43	38	42	38.5	24.5 ~30.5	6	14	13.1	100

()は折りたたみ時の寸法です。

※専用座クッションの重量は約0.45kgです。

駆動輪・主輪取付けナット

インチネジ(U N F 1 / 2 - 2 0 山)を使用

ご確認ください

自走用 NA-SU1 / NA-SU2W

自走用 NA-SU1・自走用 NA-SU2W は乗車者自身でハンドリムを駆動して操作する車いすです。この車いすは、特別な身体保持具、バックサポート(背)の角度調整・座位の姿勢変換(昇降・旋回など)等の機構がない、標準型の自走用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。

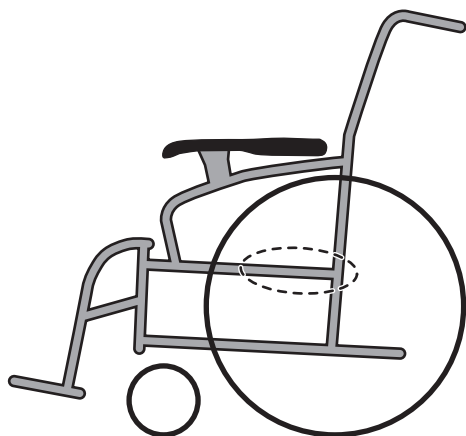
なお、購入時はこの標準型が適しているも、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準型が使用に適さなくなることがあります。

介助用 NAH-SU1 / NAH-SU2W

介助用 NAH-SU1・介助用 NAH-SU2W は介助者が操作する車いすです。この車いすは、バックサポート(背)の角度調整・座位の姿勢変換(昇降・旋回など)等の機構がない、標準型の介助用車いすです。

なお、購入時はこの標準型が適しているも、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準型が使用に適さなくなることがあります。

機種名の表示について

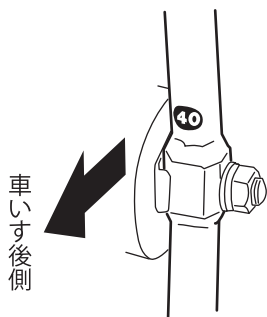


製品の機種名は車いすメインフレームの左側（乗車者様の左手側）に貼ってある、機種名を記載したシールで確認ができます。

シール例（機種：NA-SU1）

NA-SU1

シート幅の表示について



製品のシート幅は、左側（乗車者様の左手側）の駆動輪・主輪軸部に貼ってある、シート幅（単位：cm）を記載したシールで確認ができます。

シール例（シート幅40cm）

40

車いすのひろげかた

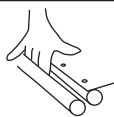
- 1** 手押しハンドルを持って軽く左右にひろげてください。



- 2** 片方の手押しハンドルを持ち上げるように反対側の座面下のパイプ部を下の方へ押し下げます。

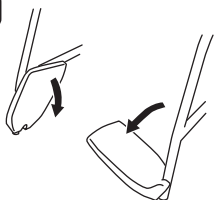


注意
警告



押し下げる際、座面パイプの下側や横側に手や指を入れないでください。危険です。

3



フットサポートプレート
を下方へ回転させるよう
にセットします。使用者
が車いすに座ってから行
うのが一般的です。



注意
警告



フットサポートを下方に回転させる際、フットサポートの下端部やフットサポートの裏側に手や指を入れないでください。危険です。

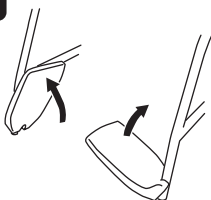
車いすの折りたたみかた

専用座クッションを装着したままでも折りたたみができます。



車いすを折りたたんで長時間保管する場合は、座クッションとバックサポートアウターシートを車いすからはずしてください。座クッション及びバックサポートアウターシートをつけたまま、長い間車いすをたたんでおくと、座クッションやバックサポートアウターシートに車いすフレームパイプの跡がつく場合があります。

1



フットサポートプレート
を上方へ回転させて収納
します。

2



座面シートの、
前後中央部を持
ち上げます。

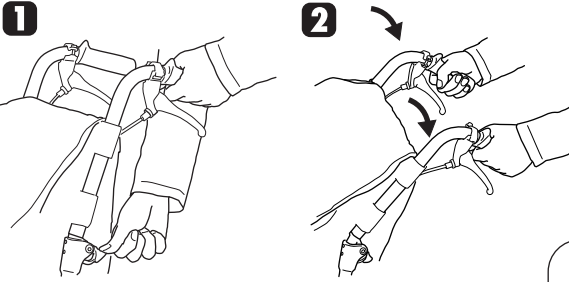
3



手押しハンドルを持って、
左右から押し縮めるように
折りたたんでください。

バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた

折りたたみかた



手押しハンドルを握り、一方の手でバックサポート折りたたみレバーを下に押しながら、手押しハンドルを手前に引くように少し折り曲げます。反対側も同様の手順で少し折り曲げてください。続いて、左右同時に折りたたみます。

固定のしかた



手押しハンドルを握り、上方へ引き起こすように持ち上げてください。左右の手押しハンドルがしっかりとロックされたことを必ず確認してください。



警告
車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。



- 矢印の部分に手や指を置かないでください。
- 矢印の部分にバックサポートシートをはさみこまないように注意してください。

● 車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。

駆動輪の操作のしかた(自走用の機種のみ)

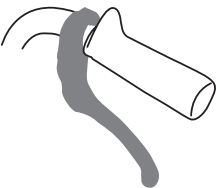


- 搭乗者がハンドリムを握り、ハンドリムを前に押ししたり、後ろへ引いたりすることで、前進又は後退します。
- 走行中にブレーキをかけるには、ハンドリムを握って駆動輪を止めます。

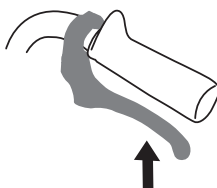


注意
タイヤを握って漕ぐと、ブレーキやフレーム、アームサポート等の間で指を挟むことがありますので注意してください。

介助ブレーキのかけかた



解除時



介助ブレーキ

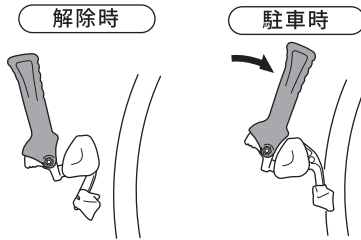
左右の介助ブレーキレバーを同時に握ると介助ブレーキがかかります。



禁止
介助ブレーキは、駐車ブレーキとして使用することはできません。駐車目的では使用しないでください。

駐車ブレーキのかけかた

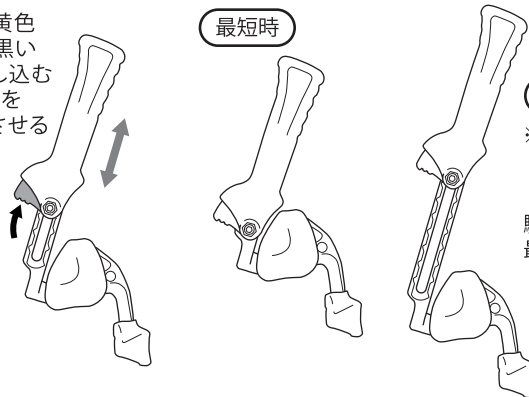
黄色のレバーを手で後方に引くと
駐車ブレーキがかかります。
レバーを前に戻した状態が解除です。



- 駐車ブレーキは左右両輪ともにしっかりとかけてください。片側だけのブレーキをかけた状態で駐車をしないでください。
- しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- 坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- ブレーキレバーに体重をあずけたり、足でレバー操作するなど、レバーに強い力がかかる行為はしないでください。
- レバー操作は、ブレーキシューやタイヤに手指があたらないように注意しながら、しずかに行ってください。
- 車いすに乗る際と車いすから降りる際には、搭乗者や介助者の身体が駐車ブレーキのレバーに触れないよう、十分にご注意ください。身体がレバーに触れることで、駐車ブレーキが解除されてしまい転倒したり、ケガをしたりするおそれがあります。

駐車ブレーキレバーの長さの調整のしかた

駐車ブレーキの黄色いレバーの下の黒いボタンを指で押し込むと、黄色のレバーを上下にスライドさせることができます。



最長時

※最短時より
+7cm

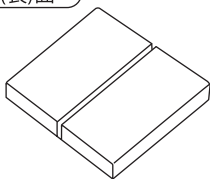
駐車ブレーキレバー長は
最短時から+7cmまで、
1cm単位で調整できます。



- 駐車ブレーキの黄色のレバー以外の場所を持って、駐車ブレーキをかけたり解除したりしないでください。指をはさんだりするなどの、思わぬケガのおそれがあります。
- 駐車ブレーキレバーを長くした場合は、車いすに乗る際や車いすから降りる際に、搭乗者や介助者の身体がレバーに接触しやすくなります。車いすに乗る際と車いすから降りる際には、搭乗者や介助者の身体が駐車ブレーキのレバーに触れないよう、十分にご注意ください。身体がレバーに触れることで、駐車ブレーキが解除されてしまい転倒したり、ケガをしたりするおそれがあります。

折りたたみ対応専用座クッションの使いかた

上(表面)



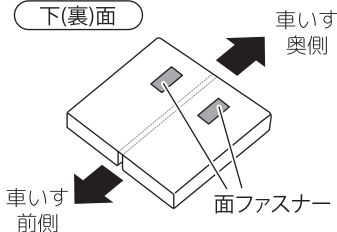
座クッション下(裏)面の面ファスナーと座シートの面ファスナーをはり合わせてしっかりと固定します。



警告

座クッションがしっかりと座シートに固定されていない状態で座クッションを使用しないでください。

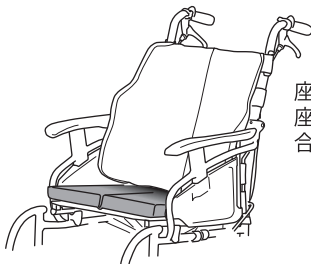
下(裏面)



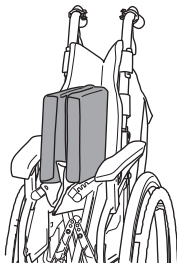
車いす
奥側

面ファスナー

車いす
前側



座シートの前端の位置に座クッションの前端の位置を合わせてください。



折りたたみ対応専用座クッションは、車いすに固定したままでも、車いすを折りたたむことができます。



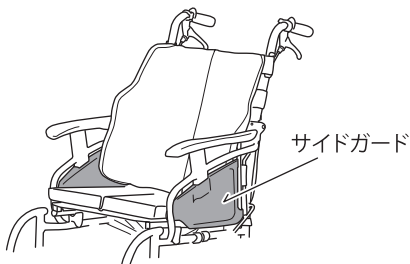
注意

車いすを折りたたんで長時間保管する場合は、座クッションを車いすからはずしてください。

座クッションをつけたまま、長い間車いすをたたんでおくと、座クッションに車いすフレームパイプの跡がつく場合があります。



サイドガードについて(必ずご確認ください)



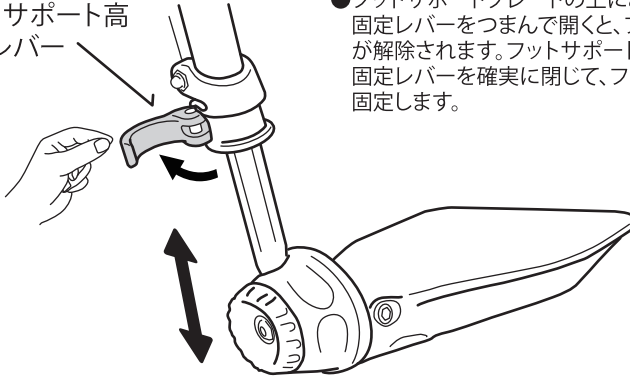
警告

サイドガードはメンテナンスのためにはずせる構造になっていますが、販売店以外の方はサイドガードをはずさないでください。サイドガードがはずれた状態での使用は事故や製品の破損につながるおそれがあります。

サイドガードが車いすにしっかりと装着されていない場合や、サイドガードに亀裂や破損がある場合は使用を中止し、販売店までご相談ください。

フットサポートの高さの調整のしかた

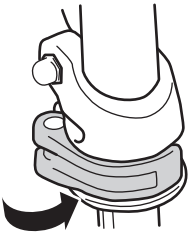
フットサポート高
固定レバー



- フットサポートプレートの上にある、フットサポート高固定レバーをつまんで開くと、フットサポート高の固定が解除されます。フットサポートの高さを合わせてから、固定レバーを確実に閉じて、フットサポートの高さを固定します。

調整後

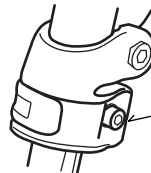
固定レバーを確実に閉じてください。
フットサポートの高さがしっかりと固定されて
上下に動かないことを確認してください。



- 車いすに座った状態で搭乗者自身でフットサポート高を調整しないでください。前かがみの姿勢になることにより、転倒の危険があります。
- 調整後はフットサポートの高さがしっかりと固定されていることを確認してからご使用ください。
- フットサポートを下げすぎると、製品が破損したり、使用中に段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最下端部を、地面から5 cm以上あけてください。
- フットサポート高固定レバーが完全に開いていない状態で無理にフットサポートを動かさないでください。ポストにキズがつき、調整がしにくくなる場合があります。
- フットサポートに腰掛けたり、登ったりしないでください。
- 使用中にフットサポートの裏側にキズがつき、鋭利な状態になっていることがあります。車いすへの乗り降りの際には、跳ね上げたフットサポートの裏側で、搭乗者の脚部や介助者の手のケガをしないよう、十分にご注意ください。

フットサポート高固定レバーを閉じてもフットサポートの高さが固定できない場合

固定レバーを確実に閉じても、
フットサポートが上下に動いてしまう場合は
レバー締付けのかたさを調整してください。
(調整作業は販売店にご依頼ください)

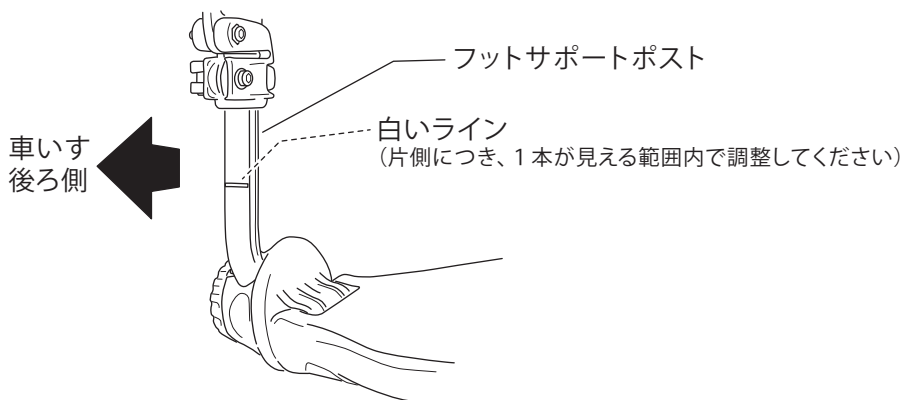


このボルトを
3 mmの六角レンチで
まわして、固さを
調整します。

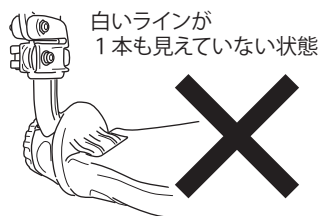
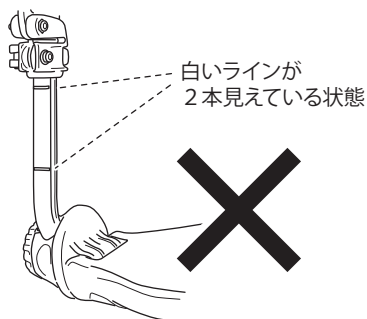


フットサポート高固定レバーの締付けの固さの調節につきましては、
専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。

フットサポート高さの調整範囲ラインについて



フットサポートの高さは、フットサポートポストを車いす後ろ側から見て白いラインが片側につき1本ずつ見えている状態で調整してください。



白いラインが片側に2本見えている状態や、片側に1本も見えない状態での使用はしないでください。製品の破損や事故につながるおそれがあります。

フットサポートポストを車いす後ろ側から見て白いラインが片側につき1本ずつ見えていて、かつフットサポートの最下端部が、地面から5 cm以上あいている状態で調整を行ってください。



**注意
警告**

フットサポートの高さが上記範囲外及び、フットサポートの最下端部が地面から5 cm以上あいていない状態で使用しないでください。製品の破損や、転倒による事故のおそれがあります。

フットサポートプレートの角度の調節のしかた

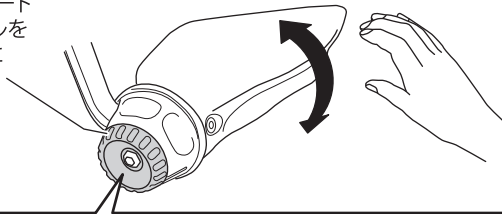
※NA-SU2W・NAH-SU2Wのみ



フットサポートプレート角度の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。

1

フットサポートプレート横の黄色いダイヤルを手で反時計まわりにまわします。
(まわしすぎないように注意してください)



フットサポートプレートを手で回転させることができるようになったところで、黄色いダイヤルを反時計まわりにまわすのを止めてください。

ダイヤルが手でまわらない場合は、フットサポートプレート横の黄色いダイヤルの中央部のボルトを5mmの六角レンチで少しゆるめます。
(ゆるめすぎないように注意してください)

黄色いダイヤルが手で回せるようになったところで、ボルトをゆるめるのを止めてください。

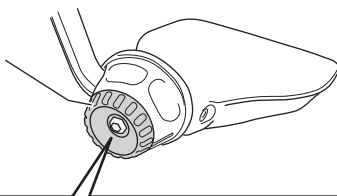
使用工具



5mm
六角レンチ

2

フットサポートプレートを任意の角度にあわせたら、ダイヤルを手で時計まわりにまわします。
フットサポートプレートの角度が固定されます。ダイヤルは手でまわらなくなるまでまわしてください。



フットサポートプレート横の黄色いダイヤルを手でまわせないように固定したい場合は、黄色いダイヤルの中央部のボルトを5mmの六角レンチで締めます。

(極端に強く締めすぎると、部品が破損する場合がありますのでご注意ください。)

使用工具



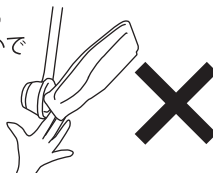
5mm
六角レンチ



注意
警告

- 車いすに座った状態で搭乗者自身でフットサポートプレート角度を調節しないでください。前かがみの姿勢になることにより、転倒の危険があります。
- 調節後はフットサポートプレートがしっかりと固定されていることを確認してからご使用ください。
- フットサポートプレートと地面が近いと、段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最下端部を、地面から5cm以上あげてください。

- 調節作業中にフットサポートプレートの跳ね上げ支点部分に手や指を入れないでください。危険です。

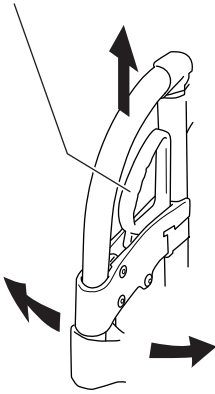


フット・レッグサポートの開閉のしかた・着脱のしかた

※NA-SU2W・NAH-SU2Wのみ

開閉のしかた・はずしかた

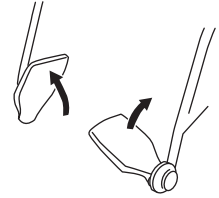
スイングイン・アウト用レバー



※搭乗者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

- スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートを内側・外側へ回転させることで、フット・レッグサポートの開閉(スイングイン&スイングアウト)ができます。

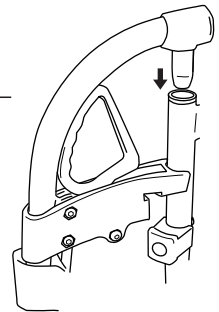
※フットサポートプレートがあたって、内側に回転できない場合は、フットサポートプレートを跳ね上げてから操作をしてください。



- スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートを上方に引き上げると、フット・レッグサポートを本体からはずすことができます。

取付けかた

- ①フット・レッグサポートを外側に開いた状態の角度で、フット・レッグサポートのインナーパイプをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。



- ②スイングイン・アウト用レバーを握りながら、フット・レッグサポートがまっすぐになる位置まで、内側に回転させてください。

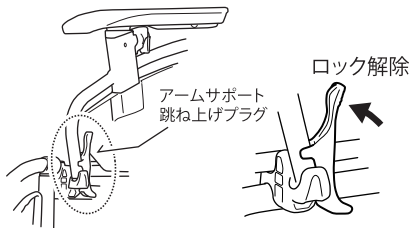
- ③フット・レッグサポートがまっすぐな正しい位置になったら、レバーから手を離してください。レバーが戻り、フット・レッグサポートがフレームに固定されていることを確認してください。(フット・レッグサポートが左右に動いたり、上方に抜けたりしないことを確認してください。)

フット・レッグサポートの開閉・着脱操作は、フット・レッグサポートレバーを握りながら行います。

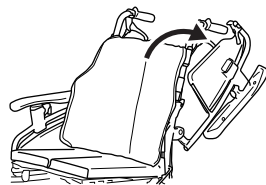
アームサポートの跳ね上げかた・戻しかた

※NA-SU2W・NAH-SU2Wのみ

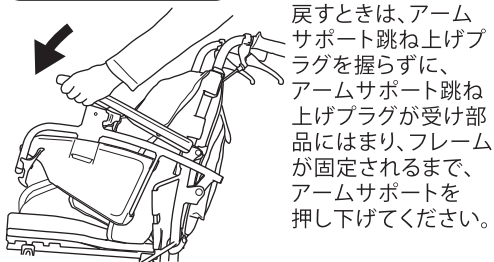
跳ね上げかた



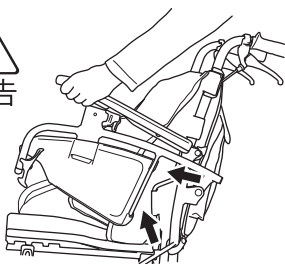
サイドガード前端部のアームサポート跳ね上げプラグのレバーを前方に押しすと、アームサポートの固定(ロック)を解除することができます。ロックを解除して、アームサポートを上に戻させるように上げてください。



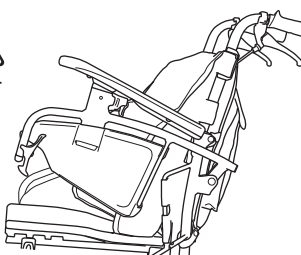
戻しかた



- アームサポートの跳ね上げは必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- アームサポートを跳ね上げた状態で車いすを動かさないでください。
- バックサポートを折りたたんだ状態でアームサポートを跳ね上げないでください。
- 跳ね上げて移乗する際は必ず、アームサポート跳ね上げプラグがバックサポートパイプの前に出ない位置まで跳ね上げてください。
- 戻すときには、アームサポートとフレームや座面の間やジョイント部に、身体や衣服が挟まらないように注意してください。



アームサポートが跳ね上げられている時は、左図の矢印部分に手や指を置かないでください。アームサポートを戻すときや、衝撃等でアームサポートが戻ってしまったときなどに、フレームで手指を挟んでケガをするおそれがあります。



搭乗者の移乗時以外には、アームサポートが完全にロックされていない状態で車いすを使用したり、放置したりしないでください。アームサポートに手をついてしまったり、アームサポートに身体や物があたってしまった際など、車いすの破損につながるだけでなく、アームサポートが急に下がり、搭乗者が転倒したり、身体を挟んでケガをするおそれがあります。

↑ アームサポートがロックされていない状態。この状態では使用しないでください。

アームサポート高の調整のしかた

※NA-SU2W・NAH-SU2Wのみ



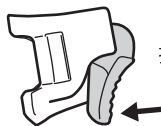
調整用レバー

- アームサポートを持ち、調整用レバーを上方に引き上げるか、前方に押し込んでロックを解除し、アームサポートの高さをゆっくりと上下させ、高さを調整します。
- 調整用レバーをロック状態に戻し、アームサポートが固定されれば調整は完了です。

調整用レバー



ロック解除状態



ロック解除状態



ロック状態

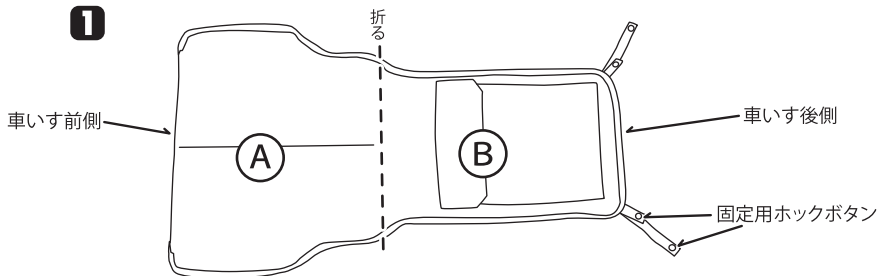


注意
警告

- ・手指等を挟まないように注意してください。
- ・調整はアームサポートが落ちないようにアームサポートを持ちながらおこなってください。アームサポートから手を離してロックを解除すると、落ちたアームサポートとフレームで手指や身体をはさんでケガをするおそれがあります。
- ・調整後はアームサポートがしっかりと固定されていて、動いたり、上方に抜けたりしないことを確認してください。

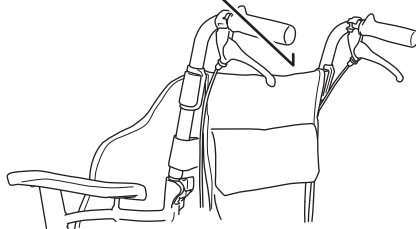
バックサポートシートの取付けかた

1



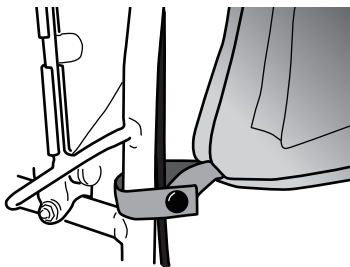
バックサポートシートを上写真のA面がインナーシートの前側、B面がインナーシートの後ろ側になるように、かぶせます。

折った部分がインナーシートのトップにあたるようにかぶせてください。



2

左右のホックボタンのついたベルトを、バックパイプにまわし、ホックボタンでとめて、左右とも固定してください。



注意

- バックサポートシートの取付けは駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 車輪のスポークや各部で手指等を挟まないように注意してください。

取付け時





バックサポート上部インナーシート・下部インナーベルトの装着について

- バックサポート上部インナーシート・下部インナーベルトは必ず、下記の通りに正しく装着して使用してください。

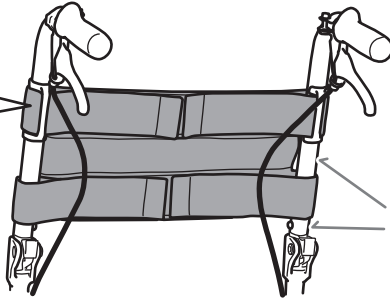
バックサポート上部インナーシート

1番上のベルトはバックサポートパイプと樹脂パーツの間を通します。



注意

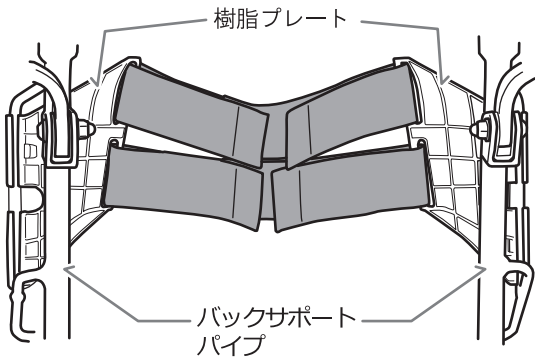
樹脂パーツがバックサポートパイプからはずれかけていないか、ご確認ください。



全てのベルトを、必ず、バックサポートパイプを巻き込んで取り付けて、面ファスナーでインナーシート面にしっかりと貼り合わせて固定してください。

バックサポート下部インナーベルト

全てのベルトを、必ず、樹脂プレートの穴を巻き込んで取り付けて、面ファスナーでしっかりと貼り合わせて固定してください。



注意

樹脂プレートがフレームからはずれかけていないか、ご確認ください。

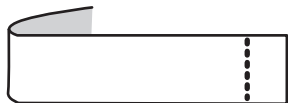


警告

バックサポート上部インナーシート・下部インナーベルトが正しく装着されていない状態で搭乗した場合、落下や各部の誤動作等で重大な事故につながるおそれがあります。

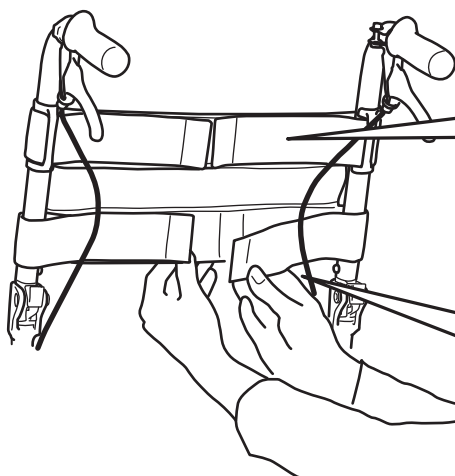
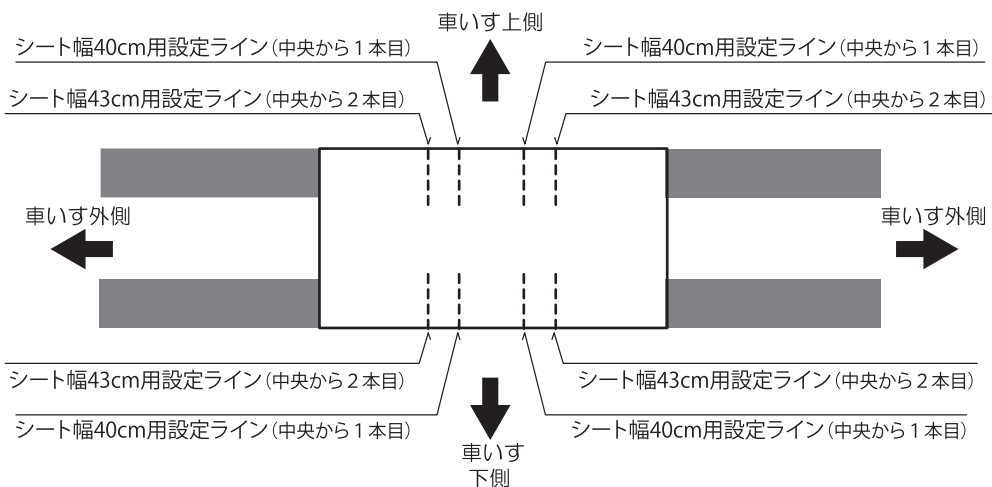
バックサポート上部インナーシート・下部インナーベルトの設定のしかた

バックサポート上部の設定



面ファスナーつきベルトの赤い縫い糸のライン(左図)を、下図で示す赤い縫い糸の設定用ラインに合わせて、面ファスナーをしっかりと貼り合わせます。車いすのシート幅により、インナーシートのどのラインと合わせるのかがわかります。

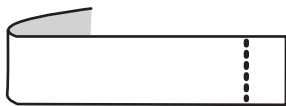
このラインをインナーシート上の設定ラインに合わせて。



ベルト4本とも、正しく設定してください。

面ファスナーで確実に固定してください。

バックサポート下部の設定



面ファスナーつきベルトの赤い縫い糸のライン(左図)を、下図で示す赤い縫い糸の設定用ラインに合わせて、面ファスナーをしっかりと貼り合わせます。車いすのシート幅により、インナーシートのどのラインと合わせるのかがわかります。

このラインをインナーシート上の設定ラインに合わせて。

シート幅40cm用設定ライン(中央から1本目)

シート幅40cm用設定ライン(中央から1本目)

シート幅43cm用設定ライン(中央から2本目)

シート幅43cm用設定ライン(中央から2本目)

車いす外側



車いす外側

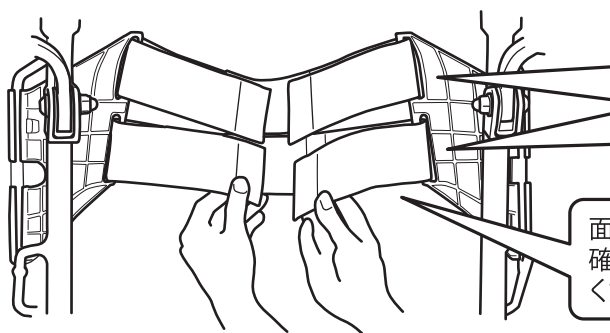


シート幅43cm用設定ライン(中央から2本目)

シート幅43cm用設定ライン(中央から2本目)

シート幅40cm用設定ライン(中央から1本目)

シート幅40cm用設定ライン(中央から1本目)



ベルトは上下とも、正しく設定してください。

面ファスナーで確実に固定してください。

全ての上部インナーシート、下部インナーベルトが面ファスナーでしっかりと固定されていることを確認し、バックサポート(アウター)シートを取りつけます。(P14 参照)



注意
警告

- シートやベルトを通して樹脂パーツがフレームにしっかりと装着されていることをご確認ください。
- バックサポート上部が使用者が搭乗した状態で調整する場合、ベルトは必ず1本ずつはずして調整してください。一度に2本以上のベルトの面ファスナーをはずすと、搭乗者が落下しケガをするおそれがあります。
- バックサポート下部が使用者が搭乗した状態で調整する場合、バックサポート上部のベルトをはずさずに調整してください。バックサポート上部とバックサポート下部を同時にはずすと、搭乗者が落下しケガをするおそれがあります。
- ベルトの面ファスナーは確実にバックサポート面に貼りつけてください。
- バックサポートの設定及び調整は、必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ベルトが破れていたり、樹脂パーツが破損していたり、面ファスナーがしっかりと固定できない場合などは使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。

ハンドリムと駆動輪リムの間隔の変更のしかた(自走用の機種のみ)

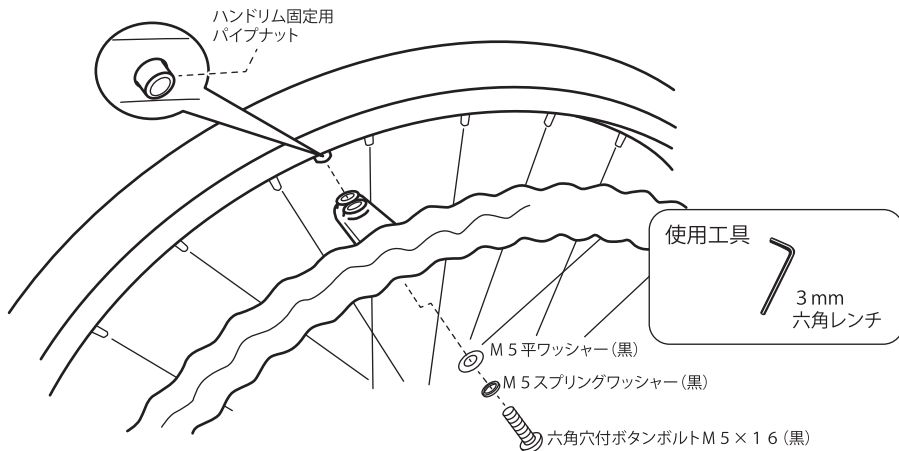


ハンドリムと駆動輪リムの間隔寸法の変更作業につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご依頼ください。



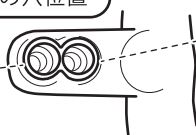
注意

ハンドリムと駆動輪リム間隔寸法の変更作業は人が車いすに乗りしていない状態で行ってください。また、作業中に各部で手指を挟まないようにご注意ください。



ハンドリムのピン部分の穴位置

ハンドリムと
駆動輪リムの
間隔20mm



ハンドリムと
駆動輪リムの
間隔10mm
(標準設定)

ハンドリムを駆動輪に固定しているボルトを緩めてはずし(駆動輪片側につき4カ所)、ハンドリムのピン部分の穴位置を変更して、ハンドリム固定用カラーパイプに組付けし直すことで、ハンドリムと駆動輪リムの間隔を10mm(標準設定)もしくは20mmに変更することができます。



注意

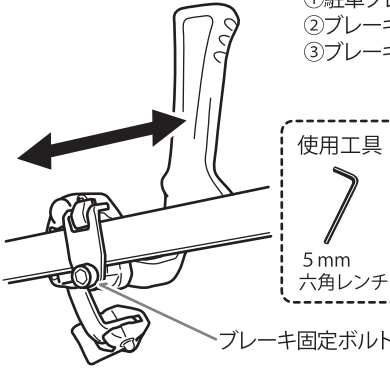
- ハンドリムのピン部分の穴位置は、車輪片側につき、4カ所とも同じ穴位置で組付けしてください。
- 組付け後は、すべてのピンがボルトでしっかりと固定されていることを確認してください。



禁止

自走用の機種(NA-SU1及びNA-SU2W)の駆動輪からハンドリムをはずしての使用はしないでください。

駐車ブレーキの調節方法



- ① 駐車ブレーキのブレーキ固定ボルトを緩めます。
- ② ブレーキがしっかりかかる位置までブレーキ本体をずらします。
- ③ ブレーキ固定ボルトをしっかり締めて固定し、完了です。



**注意
警告**

使用前には、駐車ブレーキがしっかり効くかどうか、駐車ブレーキがブレーキ固定ボルトとブレーキ固定プレートでしっかり固定されているかどうか、必ずご確認ください。



ブレーキの調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

メンテナンス・保管方法

- ボルトの緩み、フレームのガタなど目視や簡単に手で触って分かるようなチェックは、日常的に行ってください。
- 各部のメンテナンス（調節・補修・修理・部品交換等）はお買い上げの販売店にご依頼ください。
- シートが汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後水で濡らした布で洗剤をきれいに拭き取ってください。汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。
- 屋内の湿気が少ない場所に保管してください。雨に濡れる可能性のある場所や、湿気の高いところには保管しないでください。
- 直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けてください。

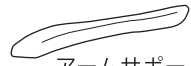


ウレタン素材には寿命があります。

- クッション性に優れているウレタン素材は、使用頻度にかかわらず経年変化を起こし、割れ、ヒビ、崩れを起こし、破損するおそれがあります。
- 特に通気の悪い場所での長期間の保管は避けてください。
- 割れやヒビ、崩れ等の症状が発生した場合は使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。



キャスト輪

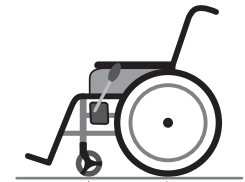


アームサポート
パッド
など



床材へのゴム汚染についてのご注意

- 塩化ビニール製のタイルやクッションフロアー等は、ゴム製品が接することで、床材の成分とゴムの化学反応により、ゴム汚染とよばれる床の変色が発生する場合があります。
- ゴム製キャスト車輪やゴム製後輪タイヤを装着している車いすを塩化ビニール製の床で使用する場合、床に直接ゴム部分が触れないように、カーペットを敷くなどの対策をとってください。
- 床材へのゴム汚染の発生は一般的な事象であり、製品の瑕疵（かし）に起因するものではありません。



キャスト車輪
(ゴム製)

後輪タイヤ
(ゴム製)

使用前点検(必ず行ってください)

- 介助ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
- 駐車ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
- 介助ブレーキのワイヤーの張り具合が適切かどうか点検し、正常に動作するかどうかご確認ください。
- ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかご確認ください。
※特に、駐車ブレーキの取付け部や、車輪軸部は確実に確認してください。
- シート・ベルトに亀裂や破れがないかご確認ください。
- 駆動輪・主輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないか、ご確認ください。
- 車輪のガタ・緩み・曲がり等がないかご確認ください。
- 前輪キャスタ輪及びキャスタフォークに変形、ひび割れ等がないかご確認ください。
- 前輪キャスタが緩んでいないか、抜け落ちていないかご確認ください。
- バックサポートのインナーシートとアウターシート、座クッションが正しくしっかりと取付けられているかご確認ください。
- 左右のサイドガードがしっかりと装着されているかご確認ください。
- 各部パーツのはずれ、変形、破損がないかご確認ください。



警告

製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに販売店に修理・部品交換・調整をご依頼ください。



注意・警告

主に製品を使用する前にご注意をいただくことや、メンテナンス等についての注意

- 各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながる可能性があります。定期的に取り扱い業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
- フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト・パーツ類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。(使用を中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。)
- 水にぬれた場合、そのままにしておく製品に錆びやカビが出る場合があります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用はしないでください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。座クッション及びバックサポートアウターシートの中材が変形するおそれがあります。また、フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座することで体調に悪影響を与えることがあります。
- 改造や分解はしないでください。
- 当取扱説明書内に記載の寸法や重量の値には、製造の都合上、多少の誤差がありますのでご了承ください。



注意・警告

主に製品を使用中・走行中にご注意をいただくこと

- 使用者の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- 身体寸法や身体の状況が車いすに合わない場合は使用をしないでください。からだに合わない状況で製品を使用すると、製品の故障や事故、身体への悪影響につながるおそれがあります。
- シートの設定が不適切な状態での使用はしないでください。ベルトを極端にきつ張りすぎている、車いすの折りたたみ動作や可動に悪影響を及ぼし、破損や事故につながるおそれがあります。
- 走行時には地面に凹凸や障害物がなく十分に注意してください。走行中、各部に凹凸や障害物が引っかかると、転倒や製品の破損のおそれがあります。
- 倒れかかるような座り方や、身を乗り出すような座り方はしないでください。バランスをくずして転倒することがあります。
- 乗車中に大きな前かがみの姿勢をとらないでください。(例: 足下や前方にあるものを触ろうとしたり、拾おうとして、前かがみの姿勢にならないようご注意ください)。バランスをくずして車いす及び乗車者が前方に転倒するおそれがあります。
- 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- エスカレーター・オートスロープ・動く歩道での使用はしないでください。転落、転倒による事故のおそれがあります。
- 公共交通機関で使用の際は、係員の指示に従い、安全に搭乗してください。
- 踏切りを横断の際は、車輪・キャスト輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまる危険があります。
- 手押しハンドルや各部フレームなどに手荷物等を掛けしないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒するおそれがあります。
- フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
- 使用中にフットサポートの裏側にキズがつき、鋭利な状態になっていることがあります。車いすへの乗り降りの際は、跳ね上げたフットサポートの裏側で、搭乗者の脚部や介助者の手をケガしないよう、十分にご注意ください。
- 坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- 乗車者・介助者とも、車いす使用時には靴をはいてください。はだして車いすを使用しないでください。思わぬケガのおそれがあります。

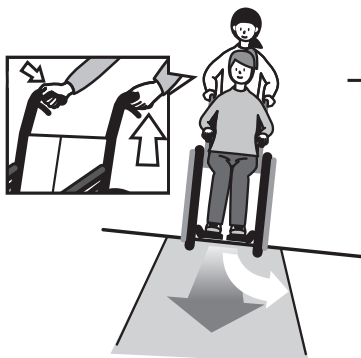
その他にご注意をいただくこと

- フレームの座面下側や、車輪、各部の隙間等に手を入れしないでください。各部が動いたり、でっばりに手を触れたりすると、ケガのおそれがあります。
- 持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。(アームサポートやフット・レッグサポート、手押しハンドル、シート等を持って運ぶと、製品の破損や事故につながるおそれがあります。)
- 本書記載以外の使用はしないでください。
- 踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
- 子供に操作をさせないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- 体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。
- 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので十分にご注意ください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱いをしたり、落としたり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損することがあります。
- 製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄につきましては、販売店までお問合せください。

車いすの使用のポイント

押し方

介助者が車いすのグリップを握り、進行方向へ押します。急発進・急停止は、乗車者に不快感を与えます。声をかけるなどの配慮をお願いします。



■外での注意（傾いた道での押し方）

傾いている側の手に力を入れて、車いすが低いほうへ曲がらないようにして押します。普通の押し方では低いほうに曲がってしまいます。

段差



- 1** 段差の直前で停車します。
- 2** グリップを引きながら同時にティッピングレバーを踏み、キャストを上げます。
- 3** 段差に駆動輪（主輪）を当てます。
- 4** グリップを持って車いすを持ち上げ、段差を乗り越えてください。

坂道



上がるときは前向きで。

下るときは後向きで。

坂道では、前傾の姿勢で前向きで上り、後ろ向きで下るのが基本です。



坂道を前向きで下ると、搭乗者が前方へ転倒したり、前方へズレたりして大変危険です。

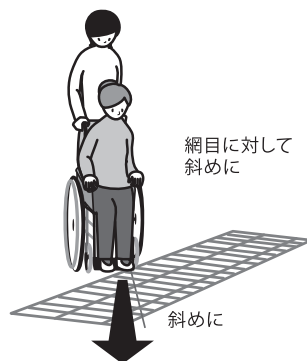
溝や踏切

キャストや駆動輪の幅・直径よりも広い溝や踏切等を通過する場合は、溝に対して直角に進入してください。直角でない場合、キャストや駆動輪が溝にはまり、抜けなくなる恐れがあります。溝の手前でキャストを持ち上げ、通過する方法もあります。




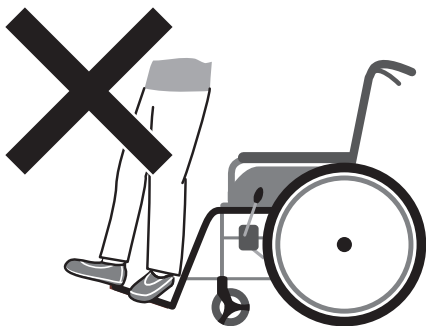
グレーチング

グレーチング（側溝を埋める金網など）を通過する場合は、右図のようにグレーチングに対して斜めに進入してください。



車いすを安全にご使用いただくための注意事項

 禁止 フットサポートの上に立たないでください。

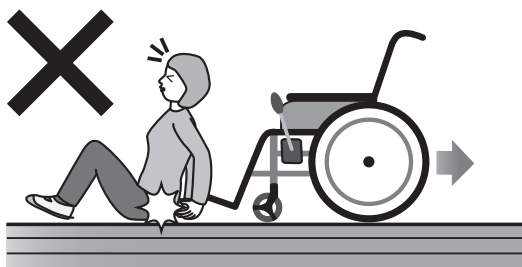


車いすのフットサポートの上に立つようなことはしないでください。製品の破損のおそれだけでなく、転倒による事故の危険があります。



注意
警告

車いすからの乗り降りは、左右の駐車ブレーキを確実にかけておこなってください。



車いすから乗り降りする場合は、左右の駐車ブレーキを確実にかけて、乗降動作をおこなってください。駐車ブレーキがかかっていない状態での乗り降りは、転倒や車いすが思わず動き出してしまうことでの事故の危険があります。

左右の駐車ブレーキを確実にかけて行ってください。

- 車いすからの乗り降り
- 車いすからベッドなどへ、ベッドなどから車いすへの移乗
- 車いすからはなれる



車いすのトラブルシューティング

故障かな?と思ったら、まずは販売店へお問い合わせください。

症 状	原 因	解決方法
斜行する。 まっすぐ走らない。	駐車ブレーキが解除されていない。	駐車ブレーキを解除してください。
	キャスタ取付けが緩んでいる。 キャスタ輪がスムーズに回転しない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
駐車ブレーキが 効かない。	ブレーキのタイヤ押さえ金具が汚れている。	タイヤ押さえ金具の汚れを拭きとってください。
	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキががたつく。(本体が動く) タイヤ押さえ金具とタイヤが当たっていない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
介助ブレーキが 効かない。	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキのワイヤーの伸び、切れ。 車軸部ドラム押さえバンドの磨耗。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
車いすを折りたた めない。	フットサポートが干渉している。 積載物などがはさまっている。	正規の状態にして再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 介助ブレーキのワイヤー等のひっかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
車いすをひろげら れない。	主輪・駆動輪が縁石などに当たっている。	広い平らな場所で再度お試しください。
	バックサポートのインナーベルトを張りすぎ ている。	張り調整をしておいて、再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 シートの挟みこみ。 介助ブレーキのワイヤー等のひっかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
異臭がする。	シートやアームサポートの汚れ。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
異音がする。 車いすがぐらつく。	シートの伸び等による干渉。 サビ・磨耗・汚れ等による油切れ 主輪・駆動輪取付けの緩み	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。

目次

- P 1 … 各部の名称
- P 2 … 仕様・サイズ
ご確認ください。
- P 3 … 機種名の表示について
シート幅の表示について
- P 4 … 車いすのひろげかた
車いすの折りたたみかた
- P 5 … バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた
駆動輪の操作のしかた（自走用の機種のみ）
介助ブレーキのかけかた
- P 6 … 駐車ブレーキのかけかた
駐車ブレーキレバーの長さの調整のしかた
- P 7 … 折りたたみ対応専用座クッションの使いかた
サイドガードについて（必ずご確認ください）
- P 8 … フットサポートの高さの調整のしかた
- P 10 … フットサポートプレートの角度の調節のしかた
- P 11 … フット・レッグサポートの開閉のしかた・着脱のしかた
- P 12 … アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた
- P 13 … アームサポート高の調整のしかた
- P 14 … バックサポートシートの取付けかた
- P 15 … バックサポート上部インナーシート・下部インナーベルトの装着について
- P 16 … バックサポート上部インナーシート・下部インナーベルトの設定のしかた
- P 18 … ハンドリムと駆動輪リムの間隔の変更のしかた（自走用の機種のみ）
- P 19 … 駐車ブレーキの調節方法
メンテナンス・保管方法
ウレタン素材には寿命があります
床材へのゴム汚染についてのご注意
- P 20 … 使用前点検（必ず行ってください）
注意・警告
- P 22 … 車いすの使用のポイント
- P 24 … 車いすを安全にご使用いただくための注意事項
- P 25 … 車いすのトラブルシューティング
- P 26 … 目次
- P 27 … 保証規定・品質保証書

保証規定

I. 保証の範囲

- 保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
- 保証期間はお買い上げ後1年間です。
- 但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
 - 取扱い過誤による故障。
 - 製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含まれます。
 - 天災、地変等による故障ならびに損傷。
 - 消耗部品、タイヤなど。
 - 保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
 - 保証書のご提示がない場合。
- 以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限ります。
- この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

II. サービスのご用命

保証期間中、万一故障が生じた場合はお買い上げの販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

III. ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

品質保証書

本商品については上記記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りお買い上げ日より「1年間」無償にて修理いたします。

機種						
お客さま	ご住所	〒				
	(フリガナ) ご氏名					
お買い上げ日	年	日	TEL 保証有効年月日	年	月	日まで
販売店	見本 印					
総販売元						
製造元	日進医療器株式会社 〒481-8681 愛知県北名古屋市中村権現35番地の2 TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787					

日進医療器株式会社

本 社 〒481-8681 愛知県北名古屋市中村権現3-5番地の2
TEL<0568>21-0635(代) FAX<0568>23-2787
東京営業所 〒112-0011 東京都文京区千石2丁目 2-1
TEL<03>3943-5200(代) FAX<03>3943-5222
大阪営業所 〒533-0013 大阪府大阪市東淀川区豊里 6-16-10
TEL<06>6323-8265(代) FAX<06>6326-2554
九州営業所 〒812-0876 福岡県福岡市博多区昭南町2丁目3-8
TEL<092>513-5036(代) FAX<092>513-5038

製品の廃棄方法

ご不用となった製品を処分される場合の廃棄方法につきましては、
お住まいの自治体のルールに従ってください。

TRV-080-03